寺島メソッド
英語アクティブ・ラーニング
寺島隆吉監修，山田昇司編著
（明石書店，2,600＋税）

長年にわたり英語教育に携わってきた教師たちによる寺島メソッドの実践記録であり，軌跡である。説明や理論だけでなく，実践者の苦労した心のうちや生徒の変化を感じたときの喜びなども書かれており，その言葉が心に響き，読むうちにどんどん惹きこまれてしまった。

寺島メソッドの最も大きな特徴は，英語学習には「水源地」というものがあり，英文法の水源地は「語順」，英音法の水源地は「リズム」だと捉えている点（本文より）である。「語順」を理解させるために用いるのは「記号づけプリント」で，そこには動詞に○，連結詞に□などの記号が書かれている。生徒はそれを元に英語を左から右へ英語の流れに沿って和訳する。寺島先生自身の夜間定時制高校での経験から生まれた「マラソンプリント」方式の追試実践では，いわゆる教育困難校でも進学校でも，生徒たちが自主的にプリントに取り組むようになったうえ，英文法への理解が深まっていくという変化が見られた。また「構造よみ」に発展させて，論理的・批判的思考力を高める実践も興味深い。他方，「リズム」を体得させるために用いられるのが，「リズムよみ」である。「リズムの等時性」により記号づけされたプリントを見て，ペンでたたきながら英文を読んだり歌を歌ったりすることで，声の出なかった生徒たちが，意欲的に取り組むようになったり，英語らしく読めるようになったりする様子が紹介されている。寺島メソッドの評価の三原則（公開性・明快性・柔軟性）が，この実践を支えていることも大切なポイントだ。

寺島メソッドは，文科省がアクティブ・ラーニングを推奨し始める30年以上前に提唱された「能動学修」である。山田氏はそれを「教育哲学の宝庫」と表現する。その理論書，実践書は30冊以上になる。一冊読むと，その奥深さゆえに，さらに学びたくなるのが寺島メソッドだと自分自身で実感している。しかし，残念なのは巻末に掲載されている文献に入手困難なものがあることだ。だが，ここに朗報がある。三友社出版で品切れ・絶版になった本も，あすなろ社から引き続き出版されることになりそうだからだ。

高草木 直子（たかくさき・なおこ
東京・文京区立文林中学校）

新英語教育2019_05月号.indd 44 19.3.6 2:39:03 PM